

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	平成28年7月26日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅱ》</p> <p>【岩手県】</p> <p>ア 設置の需要に関すること</p> <p>①市町村教育委員会における問い合わせ状況調査</p> <p>②自主夜間学級や社会教育における識字講座の利用者を対象とした設置に関する要望の有無の調査</p> <p>③適切な設置場所に関する調査</p> <p>イ 入学要件に関すること</p> <p>①夜間学級を設置している自治体の入学要件の調査</p> <p>②必要経費や事務分担等の在り方に関する調査</p> <p>ウ 教員の配置・研修、教材その他学校運営に関すること</p> <p>①夜間学級の教員の勤務形態の調査</p> <p>②教育過程、指導方法、教材等の調査</p>
調査研究のねらい	<p>本県においては、夜間学級設置の需要や県民等からの設置要望がない状況にあり、県内各市町村におけるニーズ等についても把握をしていない状況である。</p> <p>今後、国の法制化等を見据えながら、中学校夜間学級の設置について、1学級設置の可能性について検討を進めようとするものである。このことから、様々な角度から設置のニーズ、必要性や設置する場合のその在り方について調査研究を行うものである。</p>
調査研究の成果	<p>調査の結果及び検討委員会での協議により以下の点について明らかとなったこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校夜間学級を設置する際に、解決しなければならない課題がより明確になった。具体的には、ニーズの把握には調査対象を整理し、類型化を図るなど絞り込みが必要なこと、市町村教委だけではなく、関係部局、団体機関との連携が必要なこと等が明らかになったこと。 ・設置にあたっては、先進的な取組を参考に、環境整備や要件の整理等を進める必要があることを改めて考える場となったこと。 ・これまでの調査結果や検討結果を踏まえると、現時点では本県として中学校夜間学級に対する法の趣旨に沿ったニーズは顕在化

している状況ではないが、潜在的なニーズの可能性については確認することができたこと。

・ ニーズ調査では対象者を大きく3通りに類型化（A義務教育未修了者、B不登校等による入学希望既卒者、C外国籍の入学希望者）して調査を行ったが、Aの場合は対象者が高齢のため意向を確認することが非常に困難であること、Bの場合は不登校等のため中学校に通えず十分な学習ができないまま卒業した生徒が一定数いるものの、その多くは高校に進学している状況であること、Cの場合は、県内におよそ6,000名の外国人が在住している状況ではあるが、中学校卒業認定や高校進学を目的とした入学希望者が現時点では確認できないこと等の状況を把握できたこと。

・ 次年度以降も定期的な調査を実施しながら中学校夜間学級について周知を図り、一定のニーズが確認されたところで改めて設置の在り方について検討が必要なこと。